

開講科目名 Course	租税法研究演習 2 年（杉浦先生） / Seminar on Tax Law
時間割コード Course Code	18007
開講所属 Course Offered by	法学研究科修士課程 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2022年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	土 / Sat 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	杉浦 勝美
科目区分 Course Group	研究演習科目
教室 Classroom	3 2 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor （担当教員所属名 Affiliation）	杉浦 勝美（法学研究科修士課程）
授業の目標	学位取得にふさわしい内容の修士論文に仕上げることに加え、税理士試験における税法科目免除要件を満たす論文の完成を目指す。 論文作成の過程では、租税理論、税法解釈及び課税実務について学び事例への対応能力の醸成に努める。
授業の概要	研究テーマに関する判例評釈、先行研究などの理解を深め論述の方向性を明確にしていく。 資料の読み込みカードの作成を通じて、疑問点や課題の整理を行うとともに、文章作成技術の向上を図るため毎回成果物の提出を求める。
評価方法	ゼミへの出席と積極的な議論への参加及び論文作成に向けての進捗管理の状況による。 期中は参加姿勢を評価し、最終的には修士論文の完成度をもって評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	別途、年間計画を示す。（大学院所定の年間カリキュラムに加え、適時補講を行う。）
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	毎回読込カードの内容について発表し、議論を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	課税庁及び審判所勤務経験を踏まえ、税務訴訟へ発展する事案に対する課税庁の考え、審判所審理の方法等を紹介する。 税理士として取るべき行動についてアドバイスする。
質問への対応方法	ゼミ時間に限らずいつでも受け付ける。 質問は、その要旨及び自分の見解を付したペーパーで行うことを原則とする。
フィードバックの方法	回答は次のゼミ時間若しくは適時kintoneで行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	自主ゼミを行いお互いの学習深度を確認する。 原則として正規のゼミ時間数と同程度とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	

SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	